



島地川ダム

## 島地川ダム気象観測装置を納入

中国地方整備局山口河川国道事務所 島地川ダムに気象観測設備を納入しました。島地川ダムは、昭和56年3月に完成した重力式コンクリートダムで、ダム建設にあたって、従来工法より効率化に優れたRCD工法を世界で初めて採用したのが特徴です。当社は、ダムの運用に必要なデータを、ダム管理装置へ配信する下記の機器の更新を行いました。

- ・記録部、伝送部、検出部(温度計、湿度計、風向風速計等)で構成されるダム用気象観測設備
  - ・地震データ中継装置と強震計測装置で構成される強震計測設備
- 今後も島地川ダムの役割である、洪水調整/河川環境保全/都市用水の正常な運用に貢献していきます。

(当社営業担当: 中四国支店)



柴田取締役気象・管制事業部長の講演

## シンポジウム「雷・竜巻から身を守る」で講演

7月12日、テクノプラザおおた(群馬大学太田キャンパス内)で行われたシンポジウム「雷・竜巻から身を守る」で、当社 柴田取締役気象・管制事業部長が「超高密度な地上観測と安全安心な街づくり」と題した講演を行いました。

このシンポジウムは、一般の人向けに開催され、市民などおよそ50人が集まりました。本講演において、小型気象計POTEKAを使った実証実験の成果を紹介した後、「高密度な気象観測を暮らしに生かすには、市民・自治体・メーカの連携が大切」と述べました。参加した市民からは、「太田市にはアメダスがないから、このような気象計を付けて欲しい」といった期待のコメントを頂きました。

また、同時開催の第91回研究発表会では、当社から「地上稠密気象観測システムPOTEKAによる2013年9月16日群馬県みどり市の竜巻観測結果」について発表し、活発な議論を行いました。

明星電気では、竜巻等の突風を1分でも早く捉える観測方法や、急な大雨の到来を正確に住民に伝える方法など、街の安全安心に役に立つ研究開発を続けていきます。

(講演・発表担当: 気象防災事業本部 気象・管制事業部 地上気象グループ)



出展関係者と石井社長(中央)

プレゼンテーションをする  
気象・管制事業部の清水主査

## iMS-100 新型ラジオゾンデを国際展示会で発表!

2014年7月、明星電気は、ロシアのサンクトペテルブルグで開催されたWMO主催のTECO/METEOREX2014に参加し、新型ラジオゾンデiMS-100を発表しました。TECO(気象・環境測器及び観測法に関する技術会合)では、「Challenges of downsizing (Development of micro radiosonde iMS-100)」としてプレゼンテーションを行いました。同時開催の展示会METEOREXでは、IHIモスクワ事務所・IHI Europeの協力により、明星ゾンデ製品群を中心にブース出展を行い、多くの来場者で賑わいました。各国気象局の関係者から「TECOのプレゼンを聞いてiMS-100を見に来た」と言われるほどPR効果も大きく、案件の具体的な情報を得ることができました。他のゾンデメーカーからもiMS-100や特殊ゾンデについて質問があり、注目の高さがかがえました。今回入手した情報を受注に結び付けるべく、営業展開していきます。

(当社営業担当: 気象・管制事業部 営業部 前田 亮太)

## Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により革新的な商品・サービスを創造し  
安全・安心な社会の発展に貢献していきます。